

統合、地域校化へ再編

高校整備計画素案を公表

県教委

県教育委員会は21日、「第8次県高校総合整備計画」(2026～35年度)の素案を公表した。少子化に歯止めがかけられない中、各地区で統合や地域校化の再編を進めるとし、再編の必要性が見込まれる地域では具体的な構想案を示すこととした。今後、パブリックコメント(意見公募)や各地区での説明会を行い、計画策定を目指す。

県教委によると、県内の中学校卒業生数は26年3月の6万7131人から、35年3月には2万5515人減の4万6588人となる見込み。県教委は高校の教育効果を高めるため、1学年4～7学級の規模を維持する必要があるとする。

素案では、統合計画が進む横手市の平成、雄物川、増田の3校と、男鹿市の男鹿海洋、男鹿工業の2校は計画期間内

に実施するとした。それぞれ1学年5学級、4学級程度とする。

生徒数減少で統合などが必要になる見込みの地域には、再編後の校数を示した上で、地域の関係者と協議して計画期間中に構想案を示すこととした。大館市(大館鳳鳴、大館桂桜、大館国際情報学院)、能代市(能代、能代松陽、能代科学技術)、大仙市(大曲農業、大曲、大曲工業)、横手市(横手、横手城南、横手清陵学院)はいずれも3校から2校に、由利本荘市(本荘、由利、由利工業、西目)は4校から2～3校とした。

このうち能代市の3校は、能代山本地区から地区外への流出が多く、中学卒業生の減少がさらに進むと予想されることから、計画期間中の再編実現を目指すとした。

また、矢島と西仙北は入学

第8次県高校総合整備計画素案

統合する	男鹿市 2校 (男鹿海洋、男鹿工業)
横手市 3校 (平成、雄物川、増田)	
計画期間中に地域と協議を行い、具体的な構想案を示す	
大館市 3校 (大館鳳鳴、大館桂桜、大館国際情報学院)	→ 2校
能代市 3校 (能代、能代松陽、能代科学技術)	→ 2校
由利本荘市 4校 (本荘、由利、由利工業、西目)	→ 2～3校
大仙市 3校 (大曲農業、大曲、大曲工業)	→ 2校
横手市 3校 (横手、横手城南、横手清陵学院)	→ 2校
地域校化・募集停止	
矢島 → 地域校化	
西仙北 → 地域校化	
大曲農業太田分校 → 募集停止	
地域や学校で今後の在り方などを協議	
五城目、湯沢聖北雄勝校	
入学者数の推移を見極めながら、方向性を検討	
仁賀保、六郷、羽後	

者数が募集定員の3分の2以下で下の状態が続いているとして地域校化する。2分の1以下が長く続く大曲農業太田分校は募集停止するとした。

素案は、県教委の諮問機関「県高校の再編整備構想検討委員会」が昨年4月に提出した報告書を基にまとめた。

報告書で統合や地域校化の検討を提案された仁賀保、六郷、羽後の3校は、他にない特色や地域との連携などで特色ある学校作りを進めているとし、入学者数などの推移を見極めながら方向性を検討していくとした。

にかほ市では検討委の報告書を受け、高校存続に向け、市や地元商工団体などで構成する協議会が5月末に発足した。協議会会長を務める市川雄次市長は「高校があることで地域ににぎわいが生まれる。今回の県教委の判断は、市に仁賀保高校の存在意義が十分にあることを認識してもらった結果。ただ、今後の存続が確定したわけではない」と冷静に受け止めた。

(阿部拓郎、二木佳奈)